



## 「小樽商科大学地域研究会の活動」

小樽商科大学商学部教授 地域研究会代表 穴 沢 眞

平成21年度に文部科学省の教育研究特別経費により、本学内に地域研究会を立ち上げました。この地域研究会は「グローバリズムと地域経済」というテーマのもと、北海道経済の再生について教員と研究員がそれぞれの専門の立場から研究を重ね、最終的に提言をまとめるというものです。今年度は5年計画の最後の年にあたり、これまでの研究の成果をまとめる段階に入っています。

地域研究会は大きく分けて2つの研究部門を擁しています。一つは地域研究部門で、その中に金融、法制度、企業経営、環境・社会的責任、地域経営、財政、人材育成の7つの分野が含まれます。もう一つはグローバル経済部門で、こちらには理論と実証の2つの分野があります。人の入れ替わりはありますが、30数名の教員と現在は2名の研究員がそれぞれの専門に応じて上記の研究分野に配置され、様々な研究を行っています。具体的には観光、都市計画、財政政策、地方金融、地域通貨、農産物輸出、製造業振興などの研究が行われています。

これまで、地域研究会の各分野の先生方が上記のような独自の研究プロジェクトを進めるとともに、北海道庁との勉強会や他大学の先生や各分野の専門家を招いての研究会などを続けてきました。その他にもテレビ北海道と協力して「Café de けいざいナビ」を観光、金融、食をテーマに札幌の紀伊國屋書店のスペースを借りて開催してきました。

また、一昨年の本学100周年の際には国内外の研究者を招いて、国際シンポジウムを地域研究会主催で開催しました。本学は海外の19大学と協定を締結しており、特に韓国の忠南大学、中国の東北財経大学とは毎年3大学シンポジウムを開催しています。100周年の国際シンポジウムではこれらの大学だけでなく、小樽市の姉妹都市であるニュージーランドのダニーデン市にあるオタゴ大

学をはじめ、イギリス、アメリカ、ドイツ、オーストリアの協定大学からも研究者を招いて、2日間にわたり「グローバリズムと地域経済」をテーマに活発な議論がなされました。

国際シンポジウムでは、経済のグローバル化の影響を受け、各国で地域経済が停滞し、それに対応するために、現状を踏まえた各種の取り組みがなされてきたことが報告されました。それに比べると我が国や北海道の取り組みはスピード感に欠けるものになっているように思えます。

北海道を外から、さらに外国人の視点から見てもらうという意味では国際シンポジウムなどを通じて、多様な視点と実践例についての知見を得ることができました。地域研究会ではこれらを踏まえて、また、北海道の内側からの視点も添えて、最終的にグローバル化が進む中での北海道経済の今後の方向性を提示していきたいと思っています。残された時間は多くはありません。それは我々地域研究会にとってというだけでなく、小樽をはじめとした北海道にとっても言えることです。

これまで、学内のみならず学外の皆様の協力を得ながら活動を進めてきました。予算的には最終年度となるものの、活動自体は形を変えながらも継続していきたいと思っています。地元にも根ざしたシンクタンク的な機能を大学の中に維持することは今後の本学の地域貢献にも資するものと考えています。

なお、上記の国際シンポジウムの成果は日本評論社から『グローバリズムと地域経済』というタイトルで出版されました。また、この本をテキストとして1年生向けの授業も行っています。現在、さらに英語での報告をまとめた書籍の出版を準備しています。その他の地域研究会の成果も本学のホームページでみることができます。是非一度ご覧下さい。